

23年7月4日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人
青少年白線を支える埼玉の会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

児童の生活環境整備事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

①児童居室に空調設備の設置—風通しのよくない部屋の作りと配置故に毎年暑さに苦しめられている。②備品の買い替え—開設時に後援者の方々の寄付で揃えた中古備品が7年使って故障や不具合が生じ始めている。麦茶、弁当の食材収納場所の確保など最低限の生活環境の整備という面からも児童の自立を支援したい。③車の購入—児童の行事、就職活動、会社訪問、職場開拓、雨の日の会社への送り迎え等児童の自立支援に必須。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

①昨年の酷暑を乗り越え、仕事を頑張り続けた子どもたちの居室に冷暖房設備を整えてあげたい②平成16年、ホームの開設時に後援者の方々からいただいて揃えた冷蔵庫、炊飯器、トースター、掃除機等の備品が悲鳴をあげています。夏の氷、麦茶の確保、快適な朝食、清潔な部屋の維持のために備品の買い替えを図りたい③児童の行事、就職活動、会社訪問、職場開拓、引っ越し、雨の日の会社への送り迎え等児童の自立への環境整備を進める上で必須となる車の購入

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

1、空調設備—自立を目指しているとはいえ生活の大部分をホームによって支えられている児童にややもすると生活感に乏しいという課題が生じる。これを機に電気のつけっぱなし等注意を促し、生活感と自己コントロールの精神を養う機会にする。2、備品等の買い替えでは使い方、扱い方の悪さが故障を生み、余計な出費をすることの学びの機会となった。同時に冷蔵庫に自分たちのスペースが出来たことで今まで食べ残しは捨てていたのがラップをして保存するようになった。3、児童と災害ボラ参加に車を使用

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

①空調設備等生活環境を整備したことで児童の生活にリズムと張りが生まれている。今まで掃除、洗濯が苦手だった児童も自分の部屋、服装、身だしなみに気を配るようになった。と同時に快適な生活をするにはお金がかかる、食べ残し、電気のつけっぱなしで払うお金がどれだけ無駄か自分のこれからの生活のイメージ作りにやっているようだ。②車を購入、災害ボラ(炊き出し・がれきの片付け)を児童と一緒に出来たことで児童に他への思いやり、優しさを体現させ、職員との一体感も生まれた。

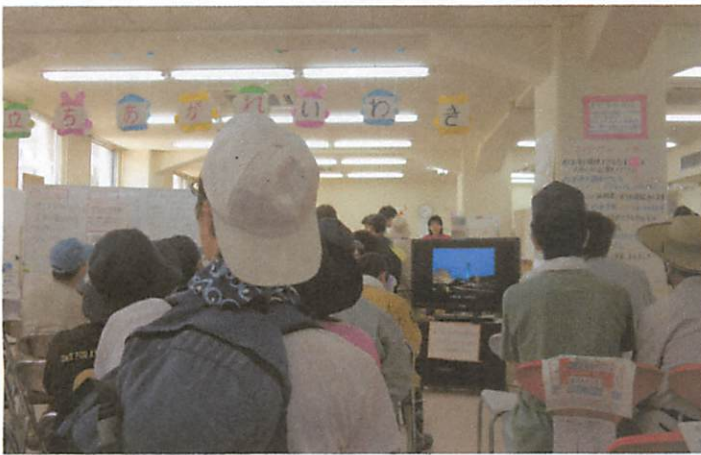
6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



炊事の風景



バス



エアコン



電気剃



焼肉プレート



電子レンジ

